

新潟県国際交流推進基金事業補助金

—令和 5 年度取組事例—

（目的）

- 気候変動により深刻化する高温、干ばつ、洪水等の複合的環境ストレスに対応した持続的なコメ生産技術を確立すること。
- 新潟大学が開発したマルチストレス耐性日本米品種の海外適応性を検証し、安定生産に向けた栽培方法を開発すること。
- ベトナムの行政機関・大学・民間企業との国際共同研究体制を構築し、研究の高度化と人材交流を推進すること。
- 国際的な研究活動を通じて、新潟県および新潟大学の国際的な研究拠点としての発信力を高めること。

（取組内容）

- 令和5年度は、現地農業企業（LOC TROI社）・カントー大学と連携し、共同研究体制の構築および栽培試験の準備を行った。
- 3月に新潟大学が開発したマルチストレス耐性日本米2品種（NU1号、しんだい5号）の現地栽培試験を開始した。

（成果）

【令和6年1月】

- ・ 情報発信の為のポスター、パンフレットの作成

【令和6年2月】

- ・ 新潟大学「紡の会」で発表、ポスターセッションでの説明
- ・ 2つのコンソーシアムの立ち上げ
 - ① コメプロジェクト（コメ・農業肥料・資材の輸出支援）
 - ② 環境プロジェクト（環境に合った栽培と水田の温室効果ガス削減）
- 3自治体、3農業法人、8企業・団体加入（※2024年3月末時点）

【令和6年3月】

- ・ 十日町市、地域振興センターと新潟産コメ輸出のプロジェクトの検討開始
- ・ 新潟大学国際シンポジウムにてベトナムカントー大学のNAM教授の講演「メコンデルタの農業開発と気候変動」



プロジェクト発表（新潟大学紡の会）
ANA クラウンプラザホテルにて



ベトナム カントー大学講演
（新潟大学国際シンポジウム）

（目的）

新潟県発祥の錦鯉は近年海外で人気上昇し、県推進ブランドとして輸出重点品目に挙げられ、輸出量が年々増加している。一方で、錦鯉に関する基礎研究については、日本は立ち遅れており、中国によって先行されてしまっている。

本研究は個体ごとに異なる錦鯉の体表模様がどのように形成されるのか分子機構を明らかにすることを目的とする。3年計画のうち、1年目は、錦鯉の体表模様の形成を把握し、色素の細胞を扱う専門的な実験技法を習得する。2年目には、次世代シーケンシング解析をおこない、色素細胞に発現する遺伝子を解析する。3年目に、海外の研究所と学術交流をおこなう。これらを通じて研究ネットワークを構築し、基礎研究からも錦鯉における新潟県の拠点性をアピールする。

（取組内容）

- ・新潟県内水面水産試験場より錦鯉の受精卵の提供を受け飼育し、成長過程でどのように体表模様が形成されるのか調べた。
- ・大阪大学を訪問し、錦鯉と同じコイ目コイ科の熱帯魚（ゼブラフィッシュ）を使って、体表に存在する黒色や赤色/黄色などそれぞれの色素の細胞を分離しサンプリングする技法を学んだ。

新潟県内水面水産試験場との共同研究



大阪大学との共同研究



（成果）

- ① 成長過程で体表模様がどのように形成されるのか、把握した。
- ② 色素の細胞を分離させ回収する専門的技法を学んだ。
- ③ 国内2箇所（新潟県内水面水産試験場と大阪大学）と共同研究をおこなった。

（目的）

○本研究は、アメリカ・中国・EU・インド・ロシア・日本の巨大な市場規模や地理空間を持つ大国・地域を対象に、それぞれの成長している「中核的地方都市」に焦点を当てて、地域経済のグローバル展開を目指すグローバル戦略の実態を戦略の内容と形成プロセス、実施の課題、市場との協働関係に注目して解明し、グローバル化指数の構築と評価を通じて中核的地方都市の成長とグローバル化との関係を明らかにする。

（取組内容）（令和5年度）

- ①都市研究シリーズセミナー「大国の経済成長とグローバル地方都市」の開催（新潟県立大学の公開授業として3回の都市研究セミナーを開催し、延べ634人の参加を得た）。
- ②2023年冬季研究会（オンライン、報告者1名）・福岡現地研究会（西南学院大学、報告者9名）・福岡現地調査（九州経済調査協会、Fukuoka Growth Next、福岡シーサイドエリア）の実施。
- ③EUと中国の都市データの整理（ドイツ・フランス・デンマークなどの地域間人口、GDP、財政、企業データなど、中国の地方都市の人口データなど）。
- ④中国・アメリカへの現地都市調査（合肥・フェニックス・ヒューストン・サンフランシスコ）。

（成果）

○都市研究シリーズセミナーのアンケートに数多くの好評コメントが寄せられ（例：「各地域の経済の話やグローバル化に伴った政策など様々な分野から新たな知見を得ることができて、とても有意義な時間だった」）、人口、労働、移民、都市、経済、集中などの都市経済に関連するキーワードに対する高い関心が示された。

○新潟県立大学国際地域学部では、グローバル経済や大国の地域研究も勉強する「国際関係コース」を選択した学生は前年に比べて大幅に増え、授業の一環として行われた都市研究シリーズセミナー（外部講師6名）は一定の役割を果たしたと考える。

○国別の分析では、日本では福岡市の国際指標のスコアは札幌・仙台・広島を大きく上回り、都市の国際化が経済成長および人口増加の重要な側面であることが確認された。アメリカでは、テキサス州を中心に南部地域の成長が顕著で、2021年時点で人口上位15都市のうち5都市がテキサスに属していることが報告され、国別の都市研究の議論が深まった。

都市研究シリーズセミナーの様子



燕三条貿易振興会

海外でのプロモーション活動等：燕三条企画展台北松山文壮園区「之間」

(目的)

- 新潟・燕三条地域のPR、および永続的なビジネス・文化交流による相互発展を図る。
- 台湾現地でのプロモーションを通じて、当該地域へのインバウンドを加速させる。

(取組内容)

- 実施時期・会場：2月16日(金)～18日(日)の3日間、台湾・台北市内「松山文壮園区」を会場に「燕三条文化交流展」を開催。（※2/15搬入、2/19撤収）
- 主要コンテンツ：ギャラリー・プロモーション・実演・ワークショップ・セミナーなど・物販・VIP招待レセプション・その他、インフルエンサーとのコラボ、メディア発信
- 実施体制：現地コーディネーター「Deamark Limited」、総合プロデュース「Cizoo&Co」、施工「鋳研所」と連携し、現地に最適化した空間を構築した。
- 主な内容：現地での物販、職人による実演・ワークショップ、およびVIP招待レセプションを実施。また、台湾の人気インフルエンサー「超認真少年」を起用した事前動画配信を行い、若年層を含む幅広い層への認知拡大を図った。

(成果)

- 来場者数：約8,000人（目標3,000人に対し約270%達成）
インフルエンサー施策および口コミ効果により、会期後半にかけて来場者が急増した。
- 売上金額：2,100万円（目標500万円に対し420%達成）
初日から好調なセールスを記録し、テストマーケティングとして極めて高い成果を得た。



時與地・傳承與創新
工業與工藝・從燕三条開始，
展開超連結

展期 | 2024 2.16(Fri.)-18(Sun.) 09:30AM-21:30PM
地點 | 松山文創園區 北向製菸工廠 (台北市信義區光復南路133號)
開幕活動 | 2.16(Fri.) 13:30 PM

流程	時間
開放入場	13:30 — 14:00
開場表演	14:00 — 14:10
致詞與合影	14:10 — 14:20
專員導覽	14:20 — 14:35
媒體採訪	14:35 — 15:00

主辦單位 | 燕三条貿易振興會 協辦單位 | 德寶股份有限公司、藤樹設計、鋳研所
策展執行 | 藤樹設計、鋳研所 贊助廠商 | SNOWPEAK、德寶股份有限公司、長谷弘工業
參展品牌 | トップ工業、マルト長谷川工作所、下村工業、玉川堂、光興商事、角利製作所、
村の鍛冶屋、金龍工具製作所、五儀、IPS PLIERS、MGNET、Mog Inc.
(依筆畫排序)



(展示ブースの様子)



(販売ブースの様子)



(YouTuber超真面目少年との対談)



(VIPレセプション)

公立大学法人新潟県立大学（国際交流センター）

学生参加型のイベント：新潟とモンゴルをつなぐ架け橋 グローバル人材育成プロジェクト

（目的）

- 新潟県内4公立大学（新潟県立大学・新潟県立看護大学・長岡造形大学・三条市立大学）学生が参加
渡航前に地域の特性を理解した上で、専門性を活かしたプレゼンにより、対日理解の促進を目指す。
- モンゴルの学生との交流、現地の経済状況の視察を通し、お互いの国の課題を共に考え、新潟県とモンゴルが今後展開しうる交流の形を提案する。
- 参加学生の国際競争力・国際発信力を養うこと及びモンゴルから優秀な留学生を獲得することを目指す。



（取組内容）（モンゴル渡航期間：令和6年3月18日～23日）

- 事前準備：選考を経た参加者10名が①モンゴル事情講義、②モンゴル語講座、③グループワーク
- 現地（ウランバートル）での活動
 - ・モンゴル国立大学、モンゴル科学技術大学の10名の学生とのジョイントセミナー
 - ・JICAモンゴル事務所、新モンゴル学園、日馬富士学園、MJアグリテック、MJパートナーズ、GOBIカシミア、セルゲレン村（遊牧民の生活）の各施設視察
- Instagramでの情報発信
- 帰国後、メディアシップ内ナレッジルームで報告会を開催した他、県知事に成果を報告



（成果）

- モンゴル国立大学との交流協定締結
- 参加学生の受賞：「雪冷房のモンゴルにおける可能性」のグループが専門家やJICAモンゴル事務所の指導・助言を受け研究を発展
 - ①北東アジア学会Future Leadership Program最優秀賞
 - ②朝日新聞大学SDGs ACTION! AWARDS選考委員会特別賞 受賞
- 参加学生の継続的な国際競争力・発信力を向上させる取り組み
 - ①卒業研究のテーマをモンゴルとし、モンゴルへ再渡航
 - ②海外の大学院進学 ③海外インターンシップ参加



【令和5年度事業を基盤としたその後の展開】

- モンゴル国立大学と優秀な留学生獲得の取り組みにつながる共同教育プログラムについて検討を開始（令和6年度～）
- 新潟県立大学モンゴルオフィス開設（令和7年8月）
- 新潟県立大学サマーセミナーにモンゴルの両大学学生が参加・双方向型の国際交流へ発展（令和6年度～）

